

令和5年度

第64回

宮崎県学校体育研究発表大会

研究紀要



【期日】 令和5年10月27日(金)

【主催】 宮崎県学校体育研究会

■ 共 催 宮崎県教育委員会
串間市教育委員会

日南市教育委員会

■ 会 場 小学校部会
中学校部会
高等学校部会
特別支援学校部会

串間市(串間市立大東小学校)
串間市(串間市民総合体育館)
串間市(県立福島高等学校)
日南市(県立日南くろしお支援学校)

第64回宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会開催要項

1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

2 主 催

宮崎県学校体育研究会

3 共 催

宮崎県教育委員会 串間市教育委員会 日南市教育委員会

4 後 援

宮崎県市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会
宮崎県私立中学高等学校長会

5 主 管

第64回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会
串間市小学校体育連盟・日南市小学校体育連盟
南那珂地区中学校体育連盟
宮崎県高等学校体育連盟日南・串間支部
宮崎県特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会

6 期 日

令和5年10月27日（金）

7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

8 会 場

期 日	種 別	会 場
10月27日（金）	小 学 校 部 会	串間市立大東小学校
	中 学 校 部 会	串間市民総合体育館
	高 等 学 校 部 会	県立福島高等学校
	特別支援学校部会	県立日南くろしお支援学校

9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習] 》 （令和5～7年度）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

《部会研究》

小学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

10 日 程

10月27日(金)	小学校部会	9:10	10:00	11:00	14:40	15:45							
		8:40	9:50	10:45	11:45	12:30	14:30	15:40	16:00				
	受付	研究会 開会行事	視点説明 研究発表	授業発表Ⅱ (各部会)	授業発表Ⅰ (つながり)	昼休憩 準備	授業研究	ポスター セッション (2コーナー)	閉会行事				
		(40分)		(45分)	(45分)		(120分)						
	会場：串間市立大東小学校												
	中学校部会	9:20	10:00	11:05	15:05	15:45							
		8:50	9:50	10:50	11:55	12:40	14:50	15:40	16:00				
	受付	研究会 開会行事	視点説明 研究発表	授業発表Ⅰ (つながり)	授業発表Ⅱ (各部会)	昼休憩 準備	ワークショップ 授業研究	各地区 研究発表	閉会行事				
		(30分)		(50分)	(50分)		(130分)	(35分)					
	会場：串間市民総合体育館												
	高等学校部会	9:40	10:10	10:35	11:30	15:00	16:00						
		9:00	10:00	10:25	11:20	12:15	13:10	15:10	15:45				
受付	研究会 開会行事	視点説明	教科研調査発表	研究発表Ⅰ	授業発表Ⅰ (つながり)	授業発表Ⅱ (各部会)	昼休憩 準備	ワークショップ 授業研究	研究発表Ⅱ	閉会行事			
	(20分)		(10分)	(15分)	(45分)	(45分)		(110分)	(35分)				
会場：県立福島高等学校（午後：串間市民文化会館）													
特別支援学校部会	8:55	9:40	10:40	11:40	13:30	14:30	15:50						
	8:40	9:15	10:30	11:30	12:30	14:20	15:40						
受付	研究会 開会行事	視点説明	授業発表Ⅱ (各部会)	授業発表Ⅰ (つながり)	授業研究	昼休憩 準備	研究協議 研究発表	授業研究会	閉会行事				
	(20分)		(50分)	(50分)	(50分)		(50分)	(70分)					
会場：県立日南くろしお支援学校													

11 内容

(1) 小学校部会

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～		
役職名	氏名		
研究発表者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
視点説明	串間市立北方小学校	教諭	川原裕一朗

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第3・4学年	ゲーム 「プレルボール」	串間市立本城小学校 教諭 吉井湧人
II (地区)	第5・6学年	ボール運動 「ソフトバレーボール」	串間市立都井小学校 教諭 黒原麻由

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名		
指導助言者	南九州大学人間発達学部	教授	宮内 孝
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	財津 吉正
司会者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
記録者	美郷町立美郷南学園	教諭	佐藤 優美
	延岡市立旭小学校	教諭	菊池 真央
進行	日南市立吾田東小学校	教諭	日吉 祐太

④ 研究発表

研究発表題目		発表者	
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方 ～「ゲーム・ボール運動」における主体的・対話的な授業の展開～		門川町立草川小学校	教諭 岩下 明弘
		門川町立門川小学校	教諭 柳田 かおり
進行・司会者	川南町立山本小学校	教諭	西村 理恵
記録者	えびの市立真幸小学校	教諭	本田 昭寿

研究発表題目		発表者	
「アクティブ・ラーニング」によるマット運動の 学習プログラムの有効性 ～小学校第6学年を対象として～		川南町立川南小学校	教諭 徳原 宏樹
進行・司会者	都城市立西小学校	教諭	井手 省吾
記録者	国富町立木脇小学校	教諭	小嶋 健太

(2) 中学校部会

① 研究発表及び視点説明

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方	宮崎市立宮崎西中学校 教諭 前田浩司
(視点説明) 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日南市立南郷中学校 教諭 中屋敷卓

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第1学年	球技 (ネット型：バドミントン)	串間市立串間中学校 教諭 尾崎城夫
II (地区)	第3学年	保健 (健康と環境)	日南市立吾田中学校 教諭 田中美津子

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名
指導助言者	宮崎大学教育学部 教授 日高正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 西田英司
司会者	西都市立都於郡中学校 教諭 金丸宜弘
記録者	宮崎市立清武中学校 教諭 日高雅友
	都城市立妻ヶ丘中学校 教諭 新名悠紀
進行	延岡市立北川中学校 教諭 原田卓弥

④ 地区研究発表

	【地区】 研究発表題目	発表者
1	【西臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～ICT機器を活用した効果的な指導方法について～	日之影町立日之影中学校 教諭 甲斐一成
2	【延岡】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡市立西階中学校 教諭 徳淵喬
3	【東臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	美郷町立美郷北義務教育学校 教諭 佐藤浩行
4	【西都・児湯】 共生の視点に立ったソフトボールの指導方法の工夫	新富町立富田中学校 教諭 古木悠貴
5	【西諸】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	小林市立三松中学校 教諭 岡上桂

(3) 高等学校部会

① 視点説明

視点説明	県立日南振徳高等学校	教諭	高野茂嘉
------	------------	----	------

② 教科研究調査発表

内 容	発 表 者
教科研究委員会の研究計画（令和5～7年）について	教科研究委員長 教諭 徳峰敬祐

③ 研究発表 I

内 容	発 表 者
全寮制中等教育学校における健康管理・体力向上について ～ウェアラブル端末を用いた保健体育～	県立五ヶ瀬中等教育学校 教諭 増田浩樹

④ 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	第3学年	球 技 (ネット型：バレーボール)	県立福島高等学校 教諭 松崎勇人
II (地区)	第2学年	球 技 (ネット型：バドミントン)	県立福島高等学校 教諭 星原貴浩

⑤ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	日本女子体育大学	教授	高橋修一
司会者	県立小林高等学校	教諭	福元哲也
コーディネーター	県立日向工業高等学校	教諭	徳峰敬祐
	県立日南振徳高等学校	教諭	高野茂嘉
記録者	県立日南振徳高等学校	教諭	成合重登
	県立日南高等学校	教諭	中須遼平

⑥ 研究発表 II

	研究発表題目	発 表 者	
1	【県北支部】 スキルチェックシートを活用した授業実践と 今後の課題	県立延岡星雲高等学校 教諭	角田 太
2	【西都・児湯支部】 水泳（クロール）における指導の在り方	県立高鍋農業高等学校 講師	黒木千種
役 職 名	氏 名		
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	堀口直樹
司会者	日南学園高等学校	教諭	清水美行
記録者	日向学院高等学校	教諭	小川隆三
	都城東高等学校	教諭	石窪真一

(4) 特別支援学校部会

① 視点説明

視点説明	県立日南くろしお支援学校	教諭	長友啓輔
------	--------------	----	------

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	高等部	球技 (バレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教諭 長友啓輔
II (地区)	中学部	球技 (くろしおバレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教諭 古小路和隆

③ 研究発表

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 ～ICTの活用を通して子供たちの力を引き出す授業づくりをめざして～	県立小林こすもす支援学校 教諭 森 玲子

④ 授業発表・研究発表協議

役職名	氏名
指導助言者	日本体育大学体育学部 准教授 村井敬太郎
	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 早崎達也
司会者	県立延岡しろやま支援学校 教諭 佐藤賢司
記録者	県立延岡しろやま支援学校 教諭 伊東寿晃
	県立日南くろしお支援学校 教諭 清美里
進行	県立日南くろしお支援学校 教諭 的野美穂子


⑤ 授業研究会

内容	担当者
球技(ネット型) 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた思考ツールの作成と評価	県立都城きりしま支援学校 教諭 笠野武志

12 参加申込み方法

10月6日(金)までに以下のアドレス、またはQRコードを利用して申し込むこと。

※大会役員・実行委員もそれぞれ申込みをして下さい。

<p>https://forms.gle/i6DpEb8RY39qDj667 QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です</p> <p>申込期限 令和5年10月6日(金)</p>	
--	---

【問い合わせ先】

宮崎県学校体育研究会事務局(高体連事務局内) 電話 0985-51-4109

つながりのある学習

宮崎県の“つながりのある学習”について

(1) 基本方針

宮崎県学校体育研究発表大会では、本研究会の趣旨を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた望ましい体育学習のあり方について、以下のような共通視点を持ち、研究を推進する。

ア 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指した学校体育の在り方を研究推進する。

イ 研究にあたっては、各校種の研究活動を推進すると共に、各地区（支部）の小・中・高・特が合同研究会を組織し、県学体研研究部と連携して『つながりのある学習』の研究推進を図る。

(2) 『つながりのある学習』の基本的な考え方

“つながり”は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校、そして特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童・生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童・生徒像を明確にし、共通認識を持ちながら研究を進めていく必要がある。

Blank writing paper template with a solid top line, a solid bottom line, and multiple dashed lines in between.

令和5年度 第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題 (R5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 部会別研究主題

部会名	主 題
小学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

3 主題の設定理由

(1) 学習指導要領の趣旨

学習指導要領の改訂では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識及び技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）」の3つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、3つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるとしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無にも関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和4年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べて全ての校種の多くの学年で体力合計点が低下している。体力合計点は、令和元年度から連続して低下している。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いているが、「シャトルラン」、「ボール投げ」は、年々低下している状況である。

また、全ての校種において、令和元年度の前後を境に「50M走」の低下が見られるが、「長座体前屈」は年々向上している結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、全ての校種で外遊びや運動・スポーツを行う活動時間の減少とともに、スマートフォンやテレビ等の視聴時間といったスクリーンタイムの増加により、年々、身体活動が低下している状況が見られる。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校で85.7%、中学校が92.0%、高等学校が91.6%となっており、県内の「あまり好きでない」「嫌い」という回答に比べ、体育授業が楽しい好きと感じる児童生徒が多い状況である。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ボール運動系ネット型」及び「球技ネット型」の領域において研究を深め、小中高特による「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、「つながり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童生徒像を明確にし、共有認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

4 研究を進めるにあたって

小中高特の「つながりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す3つの資質・能力を児童生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

③ 共生の視点に立った指導内容の充実

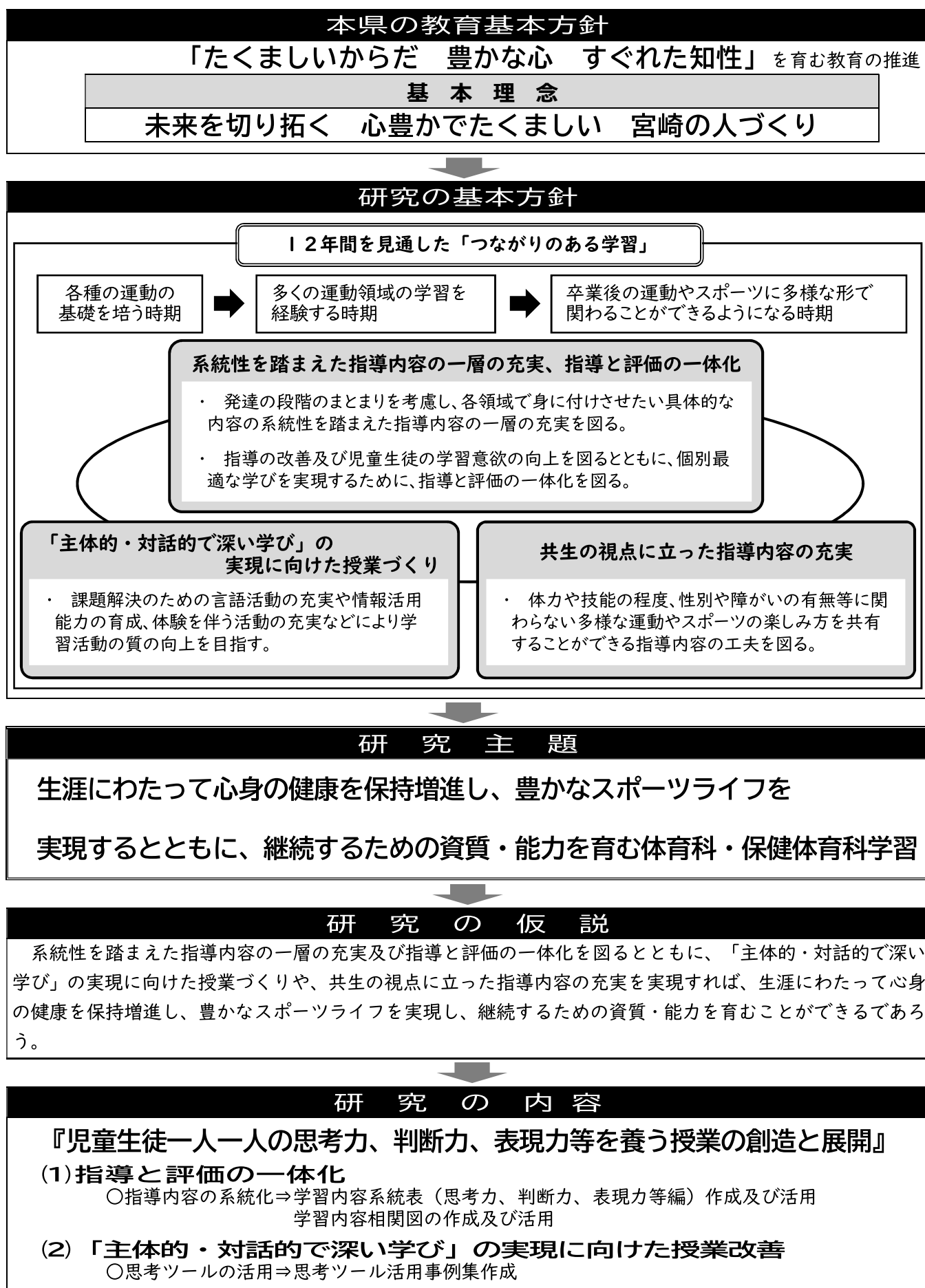
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらない多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標とし、多角的な視点での研究を進めることとする。

5 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

6 研究の概要（研究構想図）



7 研究の内容

【研究の方向性の整理】

本県では、令和5年度から令和7年度までの3年間は、「球技ネット型」の研究を深め、小中高特における「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指している。

学習指導要領において、体育の見方・考え方として、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現・継続する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。また、中教審答申では「今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちが『何ができるようになるか』を明確にしながらか、『何を学ぶか』という学習内容と、『どのように学ぶか』という学びの過程を組み立てていくことが重要になる。」とも述べている。

そこで、本県では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法や評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行ってきた。主に「スキルアップテキスト」や「学習内容系統表（技能編）」を作成したり、タブレット端末で試技を撮影することで課題発見・課題解決をしたりし、「知識及び技能」を中心に据えた研究から「つながりのある学習」を展開することができた。今年度は、「思考力、判断力、表現力等」を中心に据えて研究を深め、指導と評価の一体化を図り、更には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫を図るために、研究の内容を以下の2点に整理して研究を進めた。

(1) 指導と評価の一体化

- 指導内容の系統化 ⇒ 学習内容系統表（思考力、判断力、表現力等編）作成及び活用
学習内容相関図の作成及び活用

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 思考ツールの活用 ⇒ 思考ツール活用事例集作成

(1) 指導と評価の一体化

これまでの研究では、学習内容系統表（技能編）をもとに単元計画の作成や指導方法の工夫をすることが多かったが、本年度は「思考力、判断力、表現力等」を中心に単元計画の作成や指導方法の工夫を行うことにしたため、学習内容系統表（思考力・判断力・表現力等編）の作成を行った。また、研究を進めるにあたって「思考力、判断力、表現力等」の学習内容と「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」の学習内容は、密接な関係性であることがわかった。その関係性を具体的に示すために、学習内容相関図の作成を行った。体育科・保健体育科学習における学習内容の「縦のつながり」を学習内容系統表で示し、「横のつながり」を学習内容相関図で示したことになる。

なお、特別支援学校については、児童・生徒一人一人の実態から指導内容を定めていくことが重要になってくることから小・中・高の学習内容相関図を応用するものとした。

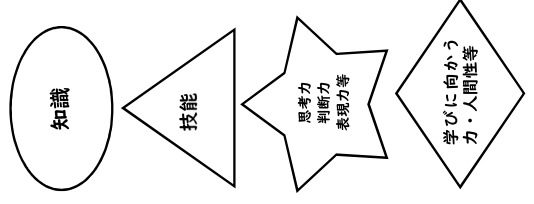
学習内容系統表【思考力、判断力、表現力等編】

段階	小学校 第1・2学年 (Eゲーム 鬼遊び) Eゲーム	小学校 第3・4学年 (Eゲーム ネット型、Eゲーム ネット型、Eゲーム ネット型)	中学校 第1・2学年 (E球技 ネット型、E球技 ネット型、E球技 ネット型)	中学校 第3学年及び高校入学年次 (E球技 ネット型、E球技 ネット型、E球技 ネット型)	高校入学年次の年次以降 (E球技 ネット型、E球技 ネット型)
領域	Eゲーム	Eゲーム	E球技	E球技	E球技
思考力、判断力、表現力等	ボールゲームでは、ゲームの場や規則の中から、楽しくゲームができる場や得点の方法など、自己に適した場や規則を選ぶこと。 鬼遊びでは、提示された簡単な遊び方や規則の中から、楽しく鬼遊びができる場や得点の方法など、自己に適した遊び方や規則を選ぶこと。	攻めと守りの局面でプレイヤーの人数に違いを認め、攻めを行いたいようにするなどの規則を選ぶこと。	提示された動きのポイントやつまみずきなどの理由を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。 提供された練習方法から自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。	選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。	選択した運動について、合理的な動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てること。
思考力、判断力、表現力等	役割の確認と作戦を選ぶこと	チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認すること。	学習した安全上の留意点から、自己やチームの留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。	選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶこと。 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返ること。	練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を提案すること。
運動の様子を伝えること	易しいボールゲームで、ボールを捕ったり行ったりした工夫を、動作や言葉で伝えること。 易しいボールゲームで、ボールが飛んだり、転がったりすることについて、友達や言葉で動作や動きを伝えること。	易しいネット型ゲームで、高さの違うボールを、両手もしくはは用具を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えること。	体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間と協力して行う方法を、仲間やゲームの場面で、最善を尽くす。フェアなプレイなど、より良い取組を見付け、理由を添えて他者に伝えること。 仲間と協力する場面で、分担当した役割に合った活動の仕方を、仲間に見付けること。 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を提案すること。	練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいメンバーや行為について提案すること。 チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案すること。 チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を提案すること。	練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいメンバーや行為について提案すること。 チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案すること。 チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を提案すること。
思考力、判断力、表現力等	運動実践に関する思考力、判断力、表現力等	運動実践に関する思考力、判断力、表現力等	運動実践に関する思考力、判断力、表現力等	運動実践に関する思考力、判断力、表現力等	運動実践に関する思考力、判断力、表現力等
思考力、判断力、表現力等	生理学的・心理学的な変化に関する思考力、判断力、表現力等	生理学的・心理学的な変化に関する思考力、判断力、表現力等	生理学的・心理学的な変化に関する思考力、判断力、表現力等	生理学的・心理学的な変化に関する思考力、判断力、表現力等	生理学的・心理学的な変化に関する思考力、判断力、表現力等

学習内容系統表【思考力、判断力、表現力等編】くろしお支援学校

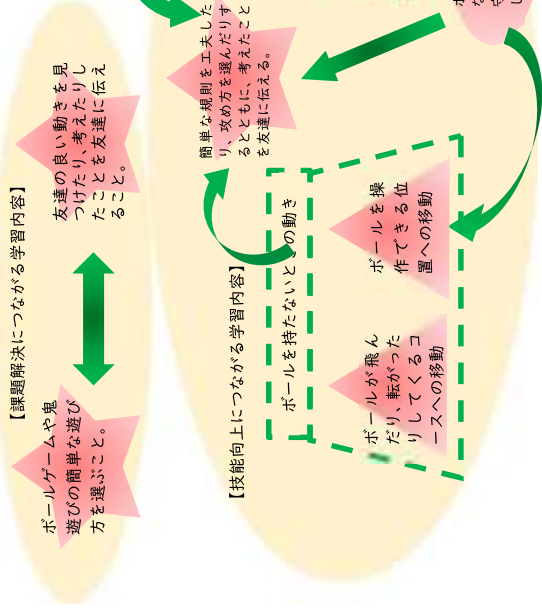
段階	1 段階	2 段階	3 段階	4 段階	5 段階	6 段階	7 段階
領域	E ボール遊び	E ボールを使った運動やゲーム	ボールを使った運動やゲーム E ボールを使った運動やゲーム	E 球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)	E 球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)	E 球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)	E 球技 (ゴール型、ネット型、ベースボール型)
領域	規則やルールの工夫すること	運動に関する 思考力、判断力、表現力等	体力・健康、安全に関する 思考力、判断力、表現力等	運動実践につながる態度に関する 思考力、判断力、表現力等	生涯スポーツの実践に関する 思考力、判断力、表現力等		
1 段階	教師の指示や合同に 従って、ボールを使っ て遊ぶこと。	簡単なルールのある、 ボール遊びや鬼 遊びをすること。	ボールを使った運動 やゲーム、鬼遊びが 楽しくできようよ うに、ルールを選 ぶこと。	自分の良かった点 や課題に気付くこ と。	自分やチームの良か った点と課題を見 つけること。	仲間の良い点と課 題を発見し、提示さ れた動きのポイント を選び、伝えること。	自分や仲間の動きを 見て、良い点や改善 点を仲間に見つけ る。
2 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	提供された練習方 法を教師の助言を もとみに選ぶこと。	提供された練習方 法を自分たちで選 ぶこと。	自分とチームの課題 を選び、伝えること。	チームの作戦や課題 解決に向けてより良 い練習を選び、伝 えること。
3 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	用具の扱い方や場 所を安全に使うこ と。	安全上の留意点を 挙げて話し合うこ と。	安全上の留意点を 挙げて話し合うこ と。	主運動につながる準 備運動を選ぶこと。
4 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	仲間と楽しもうた めの方法を教師と一 緒に見つけること。	仲間と楽しもうた めの方法を見つけて 伝えること。	仲間と楽しもうた めの方法を見つけて 伝えること。	仲間と楽しもうた めの方法を見つけて 伝えること。
5 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。
6 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。
7 段階	教師と一緒に活動を選択し、 選択した活動に取り組 むこと。	自分が組みたい活 動を提示されたイ ラストカード等から選 択すること。	自分が取り組みたい運動 を選択すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	仲間と話し合いに 参加すること。	単元について「す ばい・よい・わるい・ 知らない」など自己 の関わり方を見つ けること。

体力、健康・安全に関する指導内容



小学校
第1・2学年
ゲーム ボールゲーム

運動に関する指導内容



【健康・安全の意識を高める学習内容】
ボールゲームや鬼遊びを行う際に、危険物がないか、安全にゲームができるかなど、安全に安全に気を付けること

【公正・公平の態度を養う学習内容】

ボールゲームや鬼遊びの勝敗を受け入れること

【協力の態度を養う学習内容】

ボールゲームや鬼遊びで使用する用具等の準備や片付けを、友達と一緒にすること

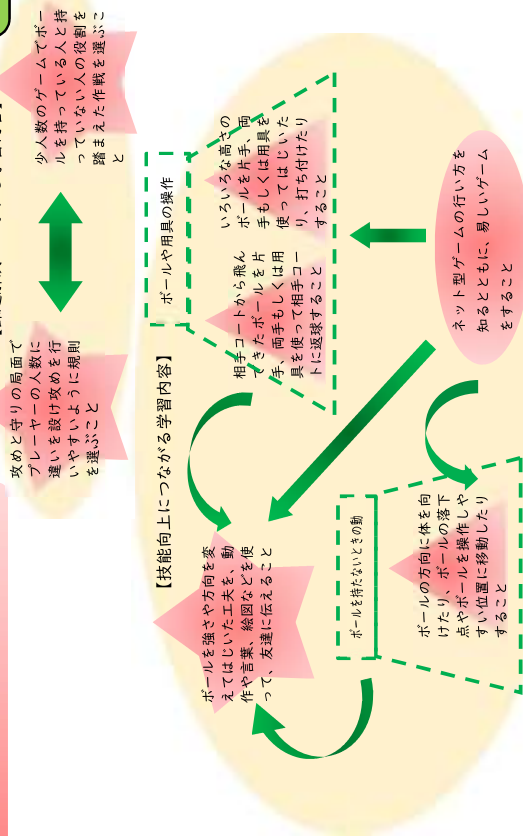
【主体性を養う学習内容】

ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと

運動実践につながる態度に関する指導内容

生涯スポーツの実践に関する指導内容

運動に関する指導内容



体力、健康・安全に関する指導内容



【共生の態度を養う学習内容】

ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に相手を認めること

【公正・公平の態度を養う学習内容】

ゲームの勝敗を受け入れること

ゲームの規則を守り、だれとでも仲良くすること

【責任・協力の態度を養う学習内容】

ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にすること

【主体性を養う学習内容】

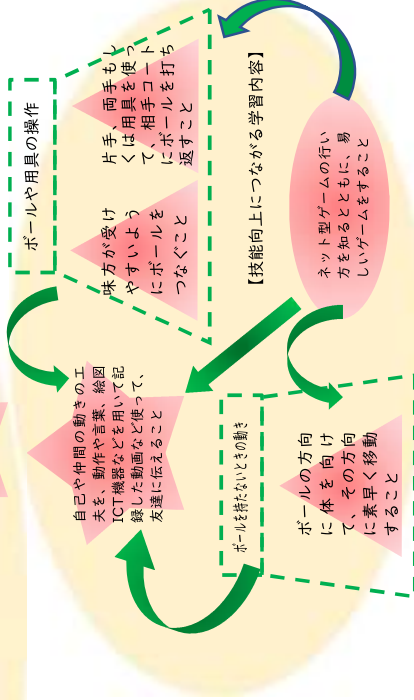
ゲームに進んで取り組むこと

運動実践につながる態度に関する指導内容

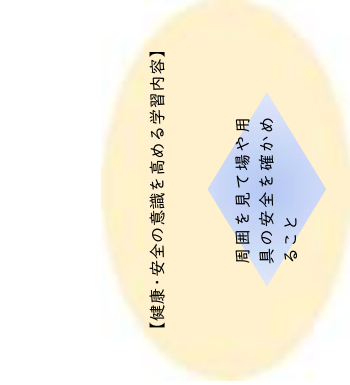
生涯スポーツの実践に関する指導内容

運動に関する指導内容

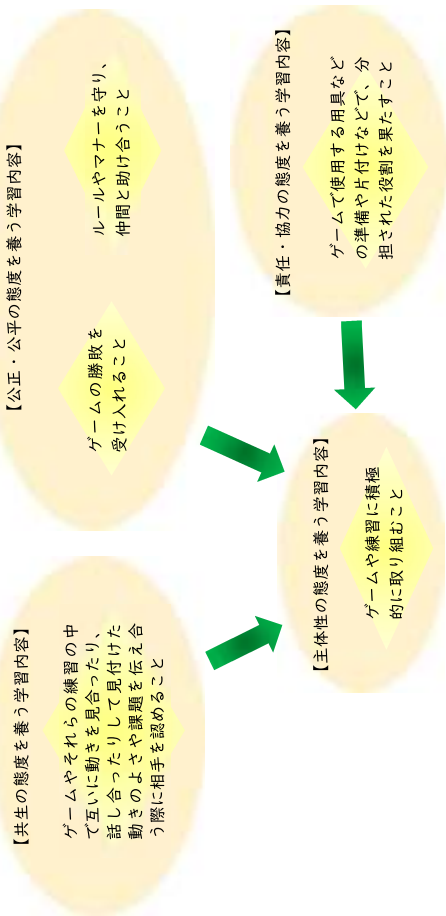
【課題解決につながる学習内容】
 チームの特徴に応じた作戦を選び自分の役割を確認する。
 攻守に応じて動くことができない範囲を設けてアレイの制限を定めるなどのルールを選ぶこと



体力、健康・安全に関する指導内容



運動実践につながる態度に関する指導内容



生涯スポーツの実践に関する指導内容

運動に関する指導内容

提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。

【運動の課題解決につながる学習内容】

戦相手との競争において、技能の程度に応じた戦や戦術を選ぶことが強みであること。

提示された動きのポイントやさまざまな事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。

ボールの動き

ボールを打ったり受けた後、ボールや相手に正対すること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

プレイを開始するときは、各が少し戻ることにすること。

相手の打球に備えながら、準備姿勢をとること。

相手を打撃に備えながら、準備姿勢をとること。

中学校 第1・2学年 球技ネット型

体力、健康・安全に関する指導内容

【健康・安全の意識を高める学習内容】

学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間伝えること。

健康・安全に留意すること。

球技は、それぞれの型や運動種目によって主に高まる体力要素が異なること。

知識

技能

思考力
判断力
表現力等

学びに向かう
力・人間性等

【公正・公平の態度を養う学習内容】

マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとすること。

【責任・協力の態度を養う学習内容】

練習の補助をしたり仲間を助言したりして仲間の学習を援助しようとする。

【共生の態度を養う学習内容】

一人一人の運に合った課題や挑戦及び修正などを認めようとする。

【特性や成り立ちの学習内容】

学校で行う球技は近代になっで開発され、今日ではオリンピックやバレーボール競技大会においても重要な競技として行われていること。

球技には、集団や個人対個人で攻防を楽しむ喜びを味わえる特性があること。

【運動の技能向上につながる学習内容】

球技の各型の名義目において用いられる技術には名称があり、それを身に付けるためのポイントがあること。

【体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。】

球技の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。

球技の学習に積極的に取り組もうとしている。

仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けること。

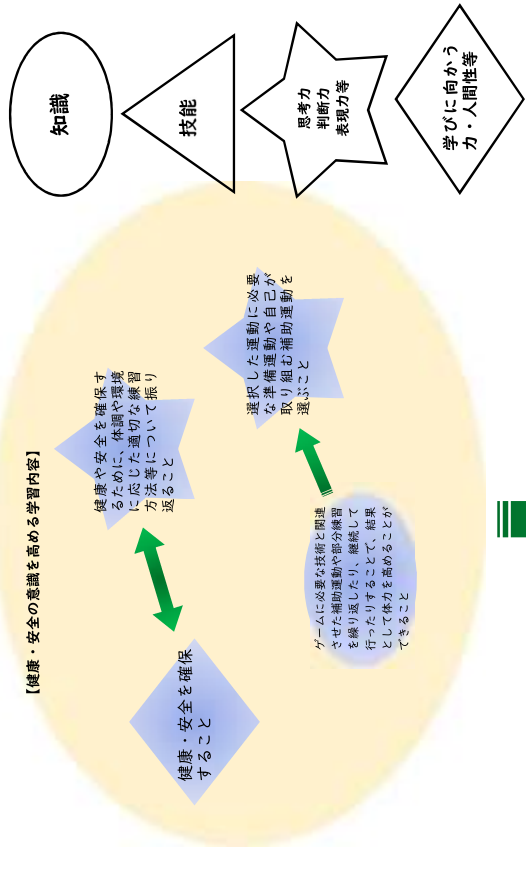
【参画する態度を養う学習内容】

仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けること。

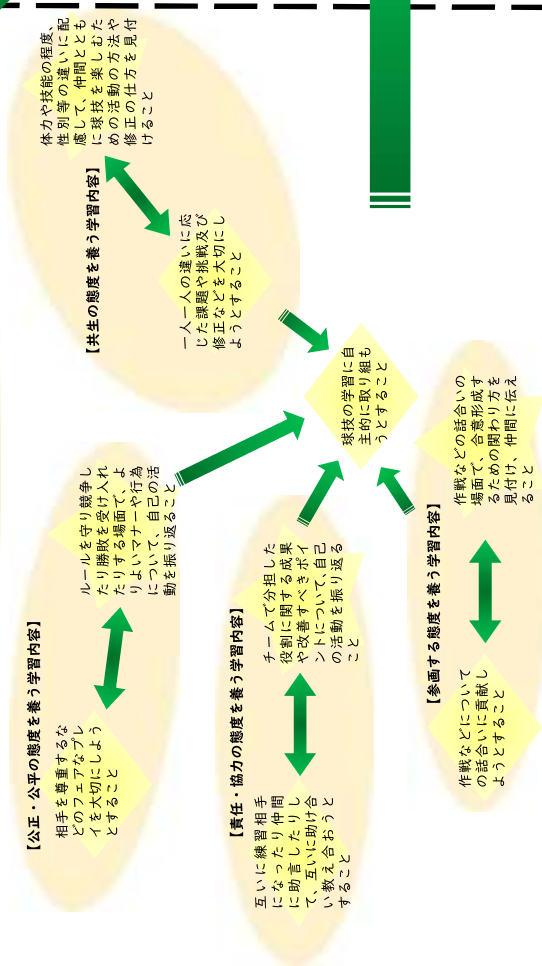
運動実践につながる態度に関する指導内容

生涯スポーツの実践に関する指導内容

体力、健康・安全に関する指導内容



生涯スポーツの実践に関する指導内容



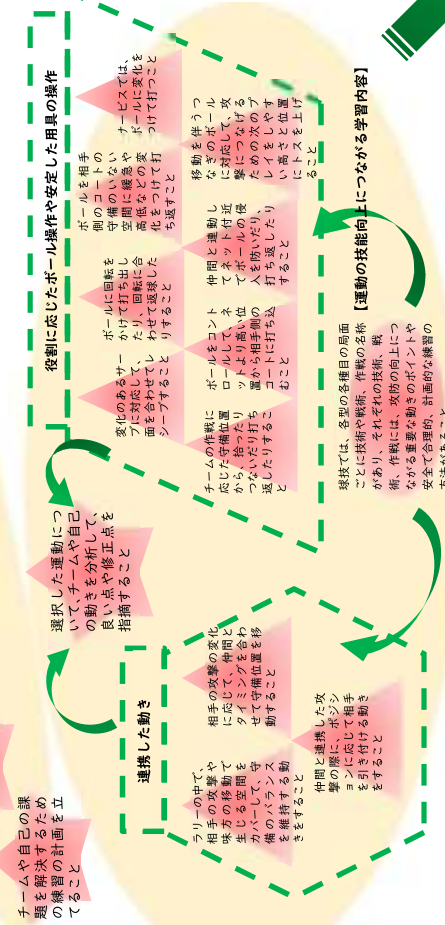
運動実践につながる態度に関する指導内容

運動に関する指導内容



運動に関する指導内容

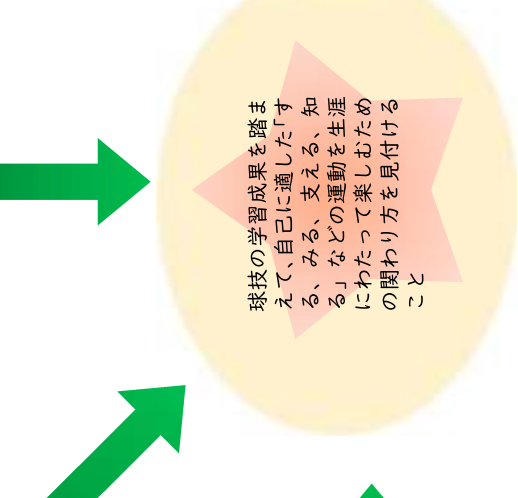
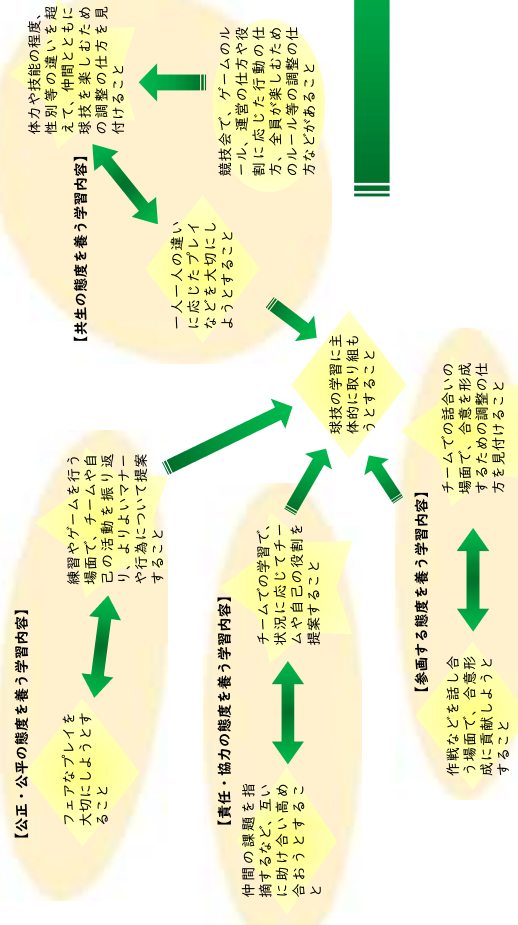
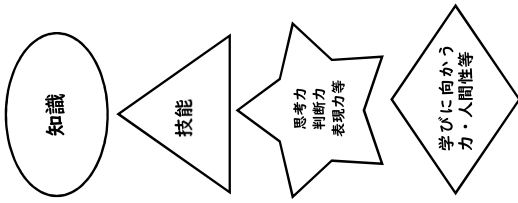
課題解決の過程を振り返り、チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てること
 課題解決の過程を振り返り、チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てること
 課題解決の過程を振り返り、チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てること



入学年次の次の年次以降 球技ネット型

【健康・安全の意識を高める学習内容】
 危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること
 練習やゲームの場面でも、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を探案すること
 球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができること

体力・健康・安全に関する指導内容



運動実践につながる態度に関する指導内容

生涯スポーツの実践に関する指導内容

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

本地区では「思考力、判断力、表現力等」を養う手立てとして「思考ツール」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行った。また、それぞれの校種ごとに体育科・保健体育科の授業で使用した思考ツールの成果と課題を集約し、校種ごとに思考ツール事例集を作成した。（別紙「思考ツール事例集」）特別支援学校については、思考ツールを活用すると、児童生徒一人一人の「思考力、判断力、表現力等」を養う授業の展開が困難となることが予測されたため「思考力、判断力、表現力等を養う手立て」として事例集を作成することとした。



【小学校の「思考ツール」の活用の工夫】

1. 方法

第1時の段階でプレルボールをやってみて児童から難しいと感じたことを挙げさせ、第2時以降の課題として取り扱った。その課題解決の際に、児童が多面的に動きの工夫について考えることができるよう思考ツールを用いて授業を進めた。第6時において相手コートにボールを打てるようにするために「3番目に打つ人がどんなこうげきをすればよいか」というめあてに対して思考ツールを用いて話し合いを行った。本時の話し合いでは、3年生という学年段階と学級の実態を考慮してあらかじめ教師から「ボールを打つ強さ」、「ねらう場所」、「立つ位置」の3つの視点を与えて話し合いを行った。



2. 考察

- ・ 複数の視点で考えたことで、打ったボールの強さや高さばかりに注目しがちだった児童が、体の向きやバウンドさせる位置も大切であるということに気づくことができた。
- ・ ゲームを終えた後の振り返りにおいて、自分たちの考えたことが取り入れられていたかについて児童の自己評価が行われていた。



【中学校の「思考ツール」の活用の工夫】

1. 方法

単元計画を作成する際に、思考ツールを毎時間活用するように計画をした。その時間の指導内容が「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」であったとしても「思考ツール」を活用して知識を深めたり、仲間の課題や良さを発見したりした。また、話し合い活動を行う際にも「思考ツール」を仲間に見せながら表現活動を行ったり、全体で発表する際にも考えを書き込んだ思考ツールを示して説明したりする機会を設定した。



2. 考 察

- ・ 生徒の考えを可視化することで生徒の表現活動が円滑になり、話し合い活動において理由付けて仲間に説明する姿が見られるようになった。
- ・ 思考ツールの種類によっては、知識を深めるために有効な手法であると考えられる。与えられた具体的な知識を「何のために必要なのか」と考えることができた。
- ・ 「めあて」と「まとめ」から思考ツールの使用目的を明確にして授業構想を行うことで、深まりある授業を展開することができた。



【高等学校の「思考ツール」の活用の工夫】

1. 方 法

単元計画を作成する際に、単元の学習内容に即した思考ツールを選び、計画を作成した。動画を撮影し、思考ツールを用いて自己または相手の良さや課題を書き込むことで知識を深め、分析を行い、その分析内容を示しながら説明する機会を設定した。



2. 考 察

- ・ 動画を撮影することにより、客観的に自己や仲間の動きを観察することができ、課題を明確に発見することができた。
- ・ 明確になった課題を思考ツールで可視化したことで、グループで分析することができ、チームや自己にあった練習法を選択することができた。



【特別支援学校の「思考力、判断力、表現力等」を養うための工夫】

1. 方 法

ゲームの中のプレーを、「サービス」「サーブレシーブ」「パス・スパイク・返球」の3観点で分析を行った。分析の際は、ボールに触るときに成功したら○、ミスをしたら×を、プルダウン式で選択し、○×の個数からチームの3観点ごとの成功率が自動で算出されるチェックシートを活用した。課題を発見する際に、チームの課題だけではなく個人の課題を発見できるようにした。

観 点	成功	失敗	成功率
サービス	○	×	成功率
サーブレシーブ	○	×	成功率
パス・スパイク・返球	○	×	成功率

2. 考 察

- ・ プレーの成功率が、具体的な数値で表記されることで、チームや個人の課題を発見できる生徒が増えた。
- ・ 日頃、表現することが苦手な生徒も、チーム付きの職員に尋ねられると自己の課題を伝えることができるようになる生徒が見られるようになった。
- ・ また、「パス」の項目にチェックが付いていない生徒がいることを発見し「次は○○さんにパスを繋ごう。」など、チームで取り組むための言葉掛けも自分たちで考えて発言する姿が見られた。



第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区大会

研究内容及び研究の方向性と授業の視点

☆ 研究内容

『児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開』

(1) 指導と評価の一体化

- 指導内容の系統化⇒学習内容系統表(思考力、判断力、表現力等編)の作成及び活用
学習内容相関図の作成及び活用

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 思考ツールの活用⇒思考ツール活用事例集作成

	該当学年と主な活動内容	※(1)の内容	※(2)の内容
小学校	【第3・4学年】(6/7 時間目) ① ネット型ゲーム (プレルボール) 【第5・6学年】(6/8 時間目) ② ネット型ゲーム (ソフトバレーボール)	○ 学習内容系統表や学習内容相関図を活用して、児童の実態に応じた指導と適切な評価を行い、指導と評価の一体化を図る。	○ 学年段階に応じた思考ツールを用いて他者との対話や自己の考えを深めさせ、思考力、判断力、表現力等を養うことができるように指導の工夫を行う。
中学校	【第1学年】(8/11 時間目) ① ネット型 「バドミントン」 【第3学年】(8/8 時間目) ② 保健分野 「健康と環境」	○ 学習内容系統表と学習内容相関図を活用して指導内容と評価機会を適切に配置し、具体的な指導方法と評価方法を実践することで指導と評価の一体化を図る。	○ 様々な思考ツールを用いて思考力、判断力、表現力等を十分に養うことができるように、指導方法の工夫と教材・教具の工夫を行う。
高等学校	【第3学年】(12/22 時間目) ① ネット型 「バレーボール」 【第2学年】(7/14 時間目) ② ネット型 「バドミントン」	○ 学習内容系統表と学習内容相関図の作成・試行を繰り返して実態に応じた活動になるようにし指導と評価の一体化を図る。	○ ICT機器と思考ツールを用いてゲーム等で思考力、判断力、表現力等を養えるよう指導方法の工夫を行う。
特別支援学校	【高等部】(13/15 時間目) ① ネット型 「バレーボール」 【中学部】(12/15 時間目) ② ネット型 「くろしおバレーボール」	○ 学習内容系統表を基にした指導と評価の計画の作成を行い指導と評価の一体化を図る。	○ 生徒の思考力、判断力、表現力等をサポートするためのICT活用(個人やチームの課題解決のためのチェックリストを活用し、練習やゲームに取り組む。)

